

アトリエ 琉游舎 だより 31号

2018年7月18日発行

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

お盆施餓鬼法要

8月19日(日)13時半から

- ★ 8月19日に「お盆施餓鬼法要」を行います。
- ★ 施餓鬼会は有縁・無縁を問わないすべての精霊への供養と回向の法要です。
- ★ お盆にお墓参りができなかつた方もお盆に興味のない方も琉游舎の法要と一緒に祖霊に報恩感謝してみませんか？
- ★ 受難、殉難、遭難、自然災害、人為災害、戦争、病没、公私問わず、すべての霊位をご供養いたします。
- ★ 「施餓鬼会」は通常の法要と異なります。ご一緒に有史以来なくなられたすべての方へ供養・回向し、私達の安寧と生きとし生けるものの平和を祈念いたしましょう。
- ★ すべての人に開かれている琉游舎は宗教宗派を問いません。お待ちしております。

○祖先のご供養をご希望の方は、事前にご連絡いただければ経木塔婆をご用意します。

○琉游舎は営利の寺ではありません。私は職業僧侶でもありません。お布施は一切お構いなきようお願い申し上げます。

8月の「写経会」はお休みいたします。9月の第1日曜日(2日)と第1火曜日(4日)に行います。

8月9日から16日までの定期開催の会はお休みします。その時期の「映画会」「詩話会」「読書会」はお休みとなります。

7月・8月のスケジュール

| | | | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----|--------------------|---------------------|--------------------|----|----|-------------------------|
| | | | 19 映画会 13:30 | 20 | 21 | 22 やいた片岡 ロードレース |
| 23 | 24 読書会 13:30 | 25 居酒屋の会 16時～ | 26 映画会 13:30 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | 8月1日 | 2 映画会 13:30 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 お盆施餓鬼法要 13時半から |

読書会
7月24日(火)
13時半から
法華経
五百弟子授記品
を読みます
8月14日はお休み

映画会
毎週木曜日
13時半から
8月9日と16日は
お休み

私の畑は今が夏野菜の収穫の盛りです。去年と比べて茄子が小さいとか、今年はトマトがよく出来たなど、努力と工夫のおかげか、気候のせい、たまたまだったのかその因果関係は分かりませんが、野菜たちの出来を素直に悦び、そしちょっとだけ自慢しながら、毎日の食事をおいしく頂いています。買った方が、手間暇もかからず肥料代や種代のことを考えれば割安で味も安定しているでしょう。物理的なすべての物が有り余り、欲しいものはお金で解決できるこの時代、趣味とは言え炎天下の草むしりや蚊に刺されながらの収穫。全く物好きなことです。

「衣食足りて礼節を知る」という言葉があります。衣食は、生活上の根本であるから、それらが満たされることによって心にもゆとりができ、礼儀を知ることができるものだという意味なのですが、私は前からどうもこの言葉にじっくりきいていませんでした。食べるものも着るものも不足して、生きるためだけに必死の時代は礼節などとは言ってはられないのも事実でしょうが、物が不足し弱肉強食の時だからこそ礼節が生まれたのではないのでしょうか？いつまでも衣食をめぐって礼節を欠いた行動を取っていれば、どのような争いごとが起こるか分かったものではありません。だからこそ社会秩序と倫理が生まれてきたと思うのです。ところが物理的な衣食が足りた瞬間に、人はその足りていることに満足せず、おひれはひれをつけた衣食（ブランド&グルメ）を求めるものです。物理的な満足が満たされた瞬間に心の満足は逆に減少していくようなのです。「みんなと同じもの」が足りた瞬間「みんなと違うもの」を求め始める。そこからまた弱肉強食と差別のサイクルが回り始めます。人はいつまでも「足りることを知らない」生きものなのです。「この衣食」が足りたら今度は「あの衣食」が足りないということに気づく繰り返し。私には「衣食足らずして礼節を知る」あるいは「衣食足りて礼節を忘れる」という言葉の方が、この人間社会にはふさわしい言葉だと思っています。

京都の禅寺、龍安寺の庭にある有名な石の手水鉢には「吾唯知足」という4つの文字が刻まれています。「われただ 足るを知る」と読み、一般的には「際限なく求めるのではなく、自分にとって必要なもの、量を知り、そしてその必要なもので満足することを知る」という意味になるのでしょうか。禅寺にある言葉なので、「自分の分をわきまえなさい」というような教訓的な意味ではないと思いたいのですが、現実肯定を強要する言葉にも見えてしまいます。誰が何のために語った言葉かを見極めずに、4文字だけを取り出すと、やはり私にはちょっとじっくりこない言葉となってしまいます。

私はこの言葉はお釈迦様が自分の安らぎの境地を語った言葉と考えたいのです。「知足」は自分の心の器に満足感、充実感、安らぎが100%満たされた状態を言っているのだと思っています。「私の心はただ安らぎに満ち足りているばかりである」「私は安らぎのところ（彼岸）にたどり着きそこに安住している」と言っているのです。人は「知足」を知らない生きものです。だからこそ今の自分の心も体も社会的な環境もありのままに観て、「知足」と観ること。それが「安らぎのところ」へ向かって歩む道であるという、お釈迦様の教えそのものを言っているように私には思えるのです。ですから「吾唯知足」はお釈迦様の言葉です。「吾」はお釈迦様自身、「知足」はお釈迦様だけが感得できる境地であり、私達人間は「知足」を求めてお釈迦様の歩んできた道を歩み続けるしか方法はないのです。「足りることを知らない」からこそ人は「知足」の道をお釈迦様と伴に歩もうとするのです。

「知足」を知らないことがわたしたちのありのままの姿であると観る、そして「知足」への道をお釈迦様とともに歩むこと。これが私たちの日常の生活であり「安らぎのところ」へたどり着くための日々の「行い」です。「知足」は悟りの世界です。悟ってしまったら人間はやる事がなくなってしまうのです。だから毎日を右往左往、喜怒哀楽の、やることだらけの日常を私たちは与えられているのです。このやることだらけの毎日を私たちは有難く思わなければなりません。やる事がなくなったと思った瞬間に、私たちはまた次のやることをお釈迦様に与えられるのです。それは「知足」を知らないことを自覚させられることであり、それによって「知足」を求めてまた歩んでいこうとする「行い」そのものだからです。

去年は茄子が豊作でした。今年は実の大きさも小さく、数も少なめです。去年のトマトは病気にやられほぼ全滅でしたが、今年は丸々と太った真っ赤なトマトがいくつも採れています。3度の挑戦でやっと食べられるほうれん草ができたと思ったら、その前に全部虫に食べられてしまいました。まだまだ2年目の素人野菜作りは、「足るを知る」には程遠い状態です。作物たちもこんな作り方じゃ満足して大きく実ってくれることもないでしょうし、虫たちももうちょっとおいしい作物を作らないと、よその畑に鞍替えするぞと内心思っているかもしれませぬ。私だけでなく作物たちも虫も鳥もまだまだこの畑が「足るを知る」に至っていないのは承知しているはずで、「知足」の歩みの為にも

琉游舎：戸井 出琉・恭子

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850

Mail:toi101izuru@outlook.jp

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

私の作物を期待して待っている虫や鳥たちの為にも、

今日も作物のご機嫌伺に、炎天下の畑に行ってきます。

それではまた次号でお会いしましょう。（出琉）